

ある日の通学路で…

1月26日午前7時。気温はマイナス3度。ボランテアで子どもたちの登下校を見守る旭日区あさひの日向良介ひょうりょうさん(72)、伏山忠蔵ふしやまさん(70)ら5人が嵯峨商店前のT字路から普代小学校までの通学路に立っていました。

左腕には「防犯ふだいっ子見守り隊」と書かれた黄色い腕章を付けています。昨秋に発足したスクールガードの皆さんです。吐く息

は白く30分も立っていると手がかじかんできます。

「おはようございます」子どもたちの元気なあいさつ。「はい、おはよう。手を挙げて渡ってね」と温かい会話が飛び交います。日向さんらは歩道もない、信号機もない狭い道路で、横断歩道の前に立ち、いつも子どもたちを見守ってくれています。

「最初はね、子どもたちも手を挙げなかつたんですよ。でもこのとおりみんな手を挙げて、渡った後もち

ゃんとお礼のあいさつをするからねー。素直でいいねー」と伏山さん。そして

「このT字路は見通しが悪く、道路が狭いから車が通ると危なくてねー」。

お話を聞いている間にも通勤の車、工事現場に向かうワゴン車、トラック、スクールバスなどさまざまな車が通りすぎます。制限速度は時速40kmでも道が狭いせいか、スピードは早く感じ、体のすぐそばを通り過ぎるようです。「雪が降ったら大変だろうな」。そう

スクールガードは地域ぐるみの活動

盛島 徹さん
(村教委指導主事)

平成13年に大阪の池田小学校で起きた児童殺傷事件をはじめ、学校内や登下校時の事件、事故が大きな問題となっていることは、皆さんもテレビや新聞などでご存じだと思います。

村教育委員会では子どもたちが安心して教育を受けられるようにと、文部科学省の委嘱を受けて「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を実施しています。

この事業は全国的に進められているもので、家庭と地域で連携しながら、地域ぐるみで学校の安全を守る体制を整備するものです。

内容はスクールガード・リーダー(地域学校安全指導員)による村内各学校の巡回指導と、児童生徒の登下校など学校安全ボランティア組織でつくるスクールガード(見守り隊)の立ち上げ、その養成講座などです。

現在、名称はそれぞれ違いますが、普代小・堀内小・黒崎小学区で、スクールガードの皆さんがボランティアで見守りをしています。

スクールガード発足

言って、伏山さんはまた子どもたちに声を掛けました。「車が来たよ。はい、渡っていいよ」。子どもたちも「ありがとうございました」。気持ちのいい空間がありました。

村で最初にスクールガードを立ち上げたのは黒崎小学区。PTA育成部を中心に地区の皆さんなど約30人がメンバーで、名称は「めんこ見守り隊(金子よう子

隊長)」。昨年7月に結成されました。

7月14日には、不審者対策の防犯教室と合わせ、児童と父母らが地域に出向いて活動。車用ステッカーを作ったり、「防犯パトロール実施中」と書かれた黄色ののぼりを地区内の11カ所に設置しました。

続いて10月には普代小学区で「ふだいっ子見守り隊(日向良介隊長)」を結成。隊員は父母や住民ら39人。通学路を中心に、子どもたちと一緒に歩いたり、車でパトロールをしながら不審者や交通事故から児童を守る活動を続けます。息の長い活動にしようと曜日当番などは設けず、自発的な取り組みをしています。

10月の学習発表会では、村上悦夫校長が「みんなと声のキャッチボールを交わす人たちです」と児童と父母に隊員を紹介しました。

11月には堀内小学区でも父母や住民ら17人で「堀内小スクールガード(太田吉信代表)」を結成。腕章などを隊員に配布しました。



昨年7月に黒崎小で行われた防犯教室